

令和5年度 第2回あま市子ども・子育て会議 会議録

開催日時	令和6年3月6日(水)
開催場所	あま市役所 2階 A1、A2、A3会議室
議題	(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査結果について (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の変更について子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	井村なを子、服部章平、川口太司、川原史子、小串由里子、吉田龍宏、横井三千代、林弘樹、吉川孝子、中村伸二、青海川祐城、樋口誠史
欠席委員	小林直也、浜辺由加里、松本志歩、山本正子
事務局	子ども福祉課 高木主幹、後藤補佐、津田係長 保育課 林課長、伊藤主幹、近藤補佐

会長	<p>本日は、ご多忙のところ、あま市子ども・子育て会議にご出席賜りまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまより始めさせていただきます。</p> <p>本日は議題が2つあります。第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に関するアンケート調査の報告についてと、また第2期子供子育て支援事業計画の変更についてが議題になっておりますので、皆さんどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、事務局からのあいさつをお願いいたします。</p>
事務局	<p>委員の皆さま、ご多忙にもかかわらず、あま市子ども・子育て会議にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>本日は、先ほど会長からご案内がありましたとおり、第3期あま市子ども・子育て支援事業計画の基礎資料となりますアンケート調査の結果について、皆様にご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>この会議は、あま市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条に基づき、公開で開催いたします。また、同要綱第7条に基づき、会議の終了後、会議録を作成しますので録音させていただき、市のホームページへ会議録を掲載することになっておりますので、ご承知ください。</p> <p>なお、小林委員、浜辺委員、松本委員、山本委員から本日の会議を欠席する旨のご連絡をいただいておりますので予めご報告させていただきます。</p> <p>それでは、議題に入らせていただきますので、会長、お願いします。</p>
会長	<p>それでは、議題1「第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査結果等について」、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	(担当者より資料の説明)
会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>ただいま説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思います。</p> <p>質疑がないようですので、次の議題に入りたいと思います。</p>

	議題2「第2期子ども・子育て支援事業計画の変更について」、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(担当者より資料の説明)
会長	説明が終わりましたが、何かお聞きしたいこと、質問したいことがございますか。
吉田委員	<p>確保量と定員の確保は極めて相関するものであります。</p> <p>今後、第3期の計画を立てるに当たって、どれくらい確保量の見込みを立てるのかということもあります。実際に、施設で、例えば、入園される定員が減っていくということであるならば、当然、施設の運営上、定員を下げることは私は賛成です。しかし、確保量の観点からすれば、定員を割ってない見込みだけで定員を下げるということは、確保量の確保が非常に困難な可能性もあります。したがって、1年を通しての実態は、施設のほうから入園児童数などの実態が示されたうえで受け付けるべきです。ただし、定員削減は届出事項なので、許認可事項ではありませんが、今後、定員を上げたり下げたりするというようなことについては、上げるということは認可事項なので、そういうことがないように見通しというのはしっかり市が持って対応されるべきと思います。なので、本当に実態が下がっているところには速やかに定員を下げることに對して対応していただきたいと思うし、実態があるところを本来は判断すべきだということがやっぱり、子ども・子育て会議としては考えていくことかなと思います。定員を下げたところで、実際、入園者が上回り続けている場合は、市は速やかに定員を上げるように勧告をするべきです。もちろん、施設間の話し合いによって合意が得られたことであるならば、それは結構ですけど、合意が得られてない場合などについては、速やかに市の指導が入る、できるような対応をしていただきたいと思います。</p>
事務局	第3期の事業計画を策定するに当たりまして、今回のアンケート調査を分析して保育園の利用希望、ニーズ量というのが出るかと思います。そのニーズ量に対し、施設、幼稚園、認定こども園と協議いたしまして適切な保育の確保に努めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。
吉田委員	<p>ニーズ量の計算式というのは、概ね国のほうで決められていますが、実際の入園児童数よりも大幅に膨れ上がります。ですから、当然確保量を満たそうと思えば、それなりの定員を各施設が確保しなければいけません。しかしながら、実際にはそこまで膨れ上がらないのが、この2つの5年間、5年間、2期を通しての結果です。なので、保育施設を運営している我々としては、もう少し現実に近い数字で確保量を設定して頂いた方が。そうしないと実際に子どもの数が入ってこないけど、確保量があるから定員がなかなか下げづらい。もしくは、県から確保量と乖離があるから新しい施設をどっか誘致しなさいと、こういう話になってくると我々の保育施設が運営できなくて倒れていきます。なので、今後、国全体としては人口減になっていくような中で、あま市としては微増していると言われております。でも、これからそれが実際の施設の運営をしている側からすれば、入ってくる人数が計画よりもはるかに少ないとなると私たちとしては定員を落としてでも運営がちゃんとできるような、つまり、定員の数によって、子ども1人当たり単価が違ってくるわけですから、当然のことながら適正な定員を確保していくということをしていかないと職員は雇えない、施設の改修もできない、保育教材も買えない。こういうことになってくるので、適正な定員管理ということが大事になってきます。そのための確保量の妥当性というものを見ていく必要あるわけで、その意味で今後第3期の計画については、これから保育量の確保、今までは待機児童がいっぱい保育量を確保していかないといけない。今後は、保育量の確</p>

	<p>保はそこそこもう出来ているけれども、場合によっては、各園の子どもがいなくなってきたり経営に困ってきて、場合によっては、閉園して移設するということも地域的には結構出てきております。名古屋市内でも閉園するところが出てきています。ステージが変わってきているので、今後の計画のあり方はより慎重を期する必要があるというふうに概ね園を運営されている方たちは思っているところがあるということ。それは、市のほうにお伝えしましたけど。なので、計画の策定に当たって、人数が一定の計算式で、このアンケート結果だからこういうふうな数字だ。ではなく、アンケートの結果は抽出した人が答えていますから、必ずしも実態とそぐわないことがある。今の入園希望児数の実態と併せて確保量を考えていく必要があると思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>アンケートは半数の方ですか、回答されたのは。そうですね、その半数の方の中の情報ですよね、これは。まだこれが確実というわけではないようですよね。そのところを少し実際との数字的なものはもう少し確かめたほうがいいと思います。</p> <p>他に何か質問はございませんか。</p> <p>それでは、質問も内容ですので、議題2「第2期子ども・子育て支援事業計画の変更について」を承認ということで皆さんよろしかったでしょうか。</p> <p>異議なしと認め、「第2期子ども・子育て支援事業計画の変更について」は承認されました。</p> <p>それでは、次の3「その他」に移ります。</p> <p>事務局、何かございますか。</p>
事務局	<p>子育てに関するアンケート調査の結果を踏まえまして、来年度に第3期の子ども・子育て支援事業計画の策定を予定しております。おそらく、4回から5回の会議になるかと思しますので、引き続き委員の皆様におかれましては、ご多忙と存じますがご協力のほうよろしくお願いいたします。</p>
会 長	<p>それでは、以上で本日のあま市子ども・子育て会議を閉会といたします。</p>